

マイクロファイナンス・プログラムにおける NGO の役割

ーインド・タミルナードゥ州・プリカット地域を事例にー

松 田 浩 敬

北海道大学大学院農学研究科

【要 約】

マイクロファイナンス・プログラムの目的は、貧困を緩和することである。このプログラムは、低利融資により所得の向上に寄与する起業の補助や、非金融サービスを提供している。プログラムの実効性は、プログラム実行機関が融資対象者・地域を熟知していること、及び融資対象者・地域の機関に対する信頼の大きさに大きく影響される。この意味で、対象者・地域に密着した形の NGO は、他の機関より大きな役割を果たすと考えられる。

本稿は、以上を明らかにするために、インド・タミルナードゥ州プリカットで活動する NGO (I.F.D.P) の、マイクロファイナンス・プログラムを通じた地域の貧困緩和に果たす役割を検討した。本稿により歴史的背景と様々なプログラムの成果から、I.F.D.P が信頼を得ていること、スタッフが地域住民で構成されているため、地域を熟知していると共に、地域住民からモニタリングされ、NGO 特有のアカウンタビリティ問題を回避できている可能性があることが示される。この二つにより I.F.D.P が「自助」の育成を可能にしている点は、今後のマイクロファイナンス・プログラムの実行の一助となりうる。

【キーワード】

マイクロファイナンス、NGO、S.H.G

謝辞：本稿の執筆にあたり、プリカット地域における調査の機会を与えて下さった、ソムニード・サンガムに感謝したい。チーフ・オフィサーの和田信明氏をはじめ CReNIEO 関係者には、貴重なレクチャーを頂いた。

プリカット地域の調査では、Rama Raju、原康子両氏が、不慣れな私を根強く導いて下さった。また S.H.G に関して本間千春、佐藤愛子の両氏が一緒に調査を行った。これらの方々がいなければ本稿を執筆することはできなかった。ここに記して謝意としたい。

受稿日 2001 年 3 月 12 日

受理日 2001 年 8 月 30 日

松田 浩 敬

1. はじめに

貧困緩和を究極の目的とする開発戦略において、近年エンパワーメントの概念が導入され、様々なアプローチが試みられているが、問題なのはその持続性である。¹⁾ これを可能にするのが、「自助」である。「自助」とは、自らの状況を改善するのに、資源等を獲得したり、自身、あるいは他者に起こっている事柄を予防することである(岩田、1995)。端的には、自身の人生や将来をコントロールできるようになることである。

本稿が事例とするインド・タミルナードゥ州プリカット地域では、S.H.Gと呼ばれるインド政府のマイクロファイナンスが実施されている。²⁾ 奇しくも先進諸国で発展・多様化している「セルフ・ヘルプ・グループ(Self Help Group)」と同名であり、内容も「セルフ・ヘルプ・グループ」に通ずるものがある。³⁾ 「セルフ・ヘルプ・グループ」は、共通の生活状態・環境にある者が体験している困難を克服、あるいはその原因を改善するために集まり、活動する。その目的は、個人の発展と社会の変化を不可分で同じ過程のものとして考え、短期的には困難を克服すること、長期的には社会の態様を変えることである。グループである以上「協働作業」なのだが、開発途上国では特にそのような経験がない。同地域のS.H.Gは、金融へのアクセスが限られている女性に融資し、地域の経済的自立や所得の向上と共に女性のエンパワーメントを達成することを目的とし、I.F.D.P(Integrated Fisherfolk Development Project; 以降I.F.D.Pとする)と呼称されるNGOが実行している。I.F.D.Pを通ずることで、「セルフ・ヘルプ・グループ」に必要な「協働作業」をS.H.Gメンバーは学ぶ。これは従来の貯蓄動員や、金融としての健全性といった視点では評価され得ない、マイクロファイナンスの成功例である。本稿は、I.F.D.Pスタッフと地域住民に対するインタビューから、I.F.D.Pが活動を通じて、「自助」・「セルフ・ヘルプ・グループ」を形成する様子とそれを可能にした要因を報告することを目的とする。

2. プリカット地域の概要⁴⁾

プリカット地域は、プリカット湖を中心とする地域である。プリカット湖は、インドの南東海岸部に位置し、総面積はインド国内2番目の大きさの約350km²で、平均水深は約1.5mである。ベンガル湾からの海水と3本の河川による淡水とが混じり、漁業資源が豊富で、地域は湖での漁業に大きく依存している。⁵⁾ しかし近年では、政府の産業政策に起因する湖の汚染や人口増加・政府の移住政策によるパドゥと呼ばれる伝統的な資源管理システムの崩壊により、漁獲高は減少傾向にある。⁶⁾ 以下では、このような状況下で活動

を行う、I.F.D.P の主な活動を歴史的背景を鑑みながら整理するとともに、S.H.G プログラム導入の経緯について整理する。

3. I.F.D.P の活動

3.1 歴史的背景

I.F.D.P は、インド全域で貧困緩和を目的とした活動を行う CReNIEO (Center for Research on New International Economic Order) の下部組織の 1 つであり、CReNIEO による '83 年から '96 年の社会経済的調査及び、それを基にしたパイロット・プロジェクトを経る過程で設立された。また 1984 年にプリカット地域では、大規模な洪水が発生し、その緊急支援にあたったのが CReNIEO であり、現在の I.F.D.P に対する住民の信頼は、これを起点とする。I.F.D.P は、①フォーマル・インフォーマル教育、②女性のエンパワーメントを主眼とした Lake Women's Advanced Project (以降 L.W.A.P とする) の二つを活動の柱としている。⁷⁾ 活動は広範に渡り、健康・衛生に関する教育、家計の所得を補助するためのスキル・プロモーションがその主な内容となっている。⁸⁾

3.2 S.H.G 導入の必要性

プリカット地域は、ほとんどの家計が漁業を生計とする。男性が漁業従事者で、女性は家事全般と男性が獲った魚を市場に持っていく。男性は漁をしない間飲酒をし、女性に暴力を働くことが頻繁にある。飲酒代、およびそのつけは、所得を圧迫する。女性の男性に比較した地位の低さは、様々な地域で見られるが、プリカット地域ではこのような特有の要因があり、より強い女性の地位向上の必要性が認められた。⁹⁾ このような生活状態・環境は住民、特に女性の対処すべき共通の問題であり、「協働作業」さえ知っていれば、「セルフ・ヘルプ・グループ」が形成されるような土壌が存在していたことを意味する。

ともかくプリカット地域では漁獲高の減少による所得の減少が深刻であるため、代替的な所得創出手段を獲得する必要がある。しかし伝統的に漁業に従事する男性は、漁業以外の仕事を行うことはできないため、家計の所得を補助するのは主に女性である。このため、L.W.A.P の一環として '97 年に I.F.D.P は S.H.G を導入した。

4. S.H.G の概要¹⁰⁾

4.1 S.H.G の形成と I.F.D.P のトレーニング

プリカット地域における S.H.G は、I.F.D.P とタミルナードゥ州とが連携しながら行う。運営全般に関して I.F.D.P がコーディネートし、メンバーに対す

松 田 浩 敬

るトレーニングを行う。以下では、プリカット地域のS.H.Gの概要、及びそれに対するI.F.D.Pの役割を整理していく。

a S.H.Gの形成

住民がS.H.Gを形成するきっかけは、①I.F.D.Pのすすめ、②同じ村落内のS.H.Gの活動に誘発、③既に形成されているS.H.G構成員からのすすめ、である。S.H.Gの形成が決定されると、I.F.D.Pのサポートの下、活動の開始に向けて準備が進められる。

メンバーの資格は既婚であることで、おおよそ18～60歳の既婚女性により1つのS.H.Gは12～20人で構成される。最初に行われるのは、アニメーター(Animator)と代表者(Representative)を選出することである。¹¹⁾ 次に、この2人を名義人として、銀行に口座が開設される。¹²⁾ この口座開設日がS.H.Gの発足日になる。¹³⁾ 発足すると州政府からグループ・メンテナンス・ファンド(Group Maintenance Fund; 以降G.M.Fとする)が支給され、S.H.Gの運営に充てられる。

b I.F.D.Pによるトレーニング

発足手続き終了後、I.F.D.Pによるトレーニングが開始される。グループメンバーの貯蓄・貸付の重要性の認識を基本として、トレーニングが行われる。¹⁴⁾ トレーニングは、10項目からなり、2月に1度、2つのグループが同時にトレーニングを受ける。トレーニングは午前10:00から午後4:30まで続き、1度に1つの項目を行い、2人のI.F.D.Pスタッフが出席する。最も重要なトレーニングは、スタッフ間でミーティングと呼ばれるものである。メンバー同士が意見を言い合い、全て自分達で意志決定する訓練である。I.F.D.Pスタッフは司会進行と、休憩時のレクリエーションを行うなどする。当然ある程度、導くべき結論は用意されているが、そこに至るまでのプロセスが重要で、I.F.D.Pスタッフは、それをうまくコーディネートしていく役割を担う。スタッフによると、トレーニングに際して最も気を遣うことは、トレーニングを受けるメンバー全員が議論に参加することであった。集中力を失わせないための合間の休憩も重要で、スタッフが打楽器を打ち、皆で歌を歌ったりレクリエーションゲームを行うなどしていた。¹⁵⁾

I.F.D.Pはトレーニング全般に関わるのだが、あくまでコーディネーターとしてサポートに徹しており、S.H.Gメンバーの自主性が重んじられる点に特徴がある。これにより各S.H.Gメンバーは、教育や保健・衛生等を意識するようになる。しかし最も大きい効果は、自分の意見を公開し、議論をすること

を覚え、その結果として自分たちで意志決定を行うことを覚えることである。「セルフ・ヘルプ・グループ」の活動は、グループのメンバーによって決められるものであり、グループ外メンバーにより決定されることはない。I.F.D.P の S.H.G へのトレーニングは、S.H.G を「セルフ・ヘルプ・グループ」へと導くものである。

5. S.H.G の主な活動

5.1 S.H.G の保有するファンド

S.H.G の保有するファンドは、①グループの運営に充てられる G.M.F¹⁶⁾、②グループメンバーによる一定額の貯蓄であるグループ・コモン・ファンド (Group Common Fund；以降、G.C.F とする)、③不測の事態に備える、グループ・リザーブ・ファンド (Group Reserve Fund；以降、G.R.F とする) である。G.C.F の貯蓄額は、トレーニング時に自分達の生活を鑑みながら、自分達に合うように決める。¹⁷⁾ G.R.F は、メンバーが、他のインフォーマルな金貸しから資金を借り受け、返済できないといった不測の事態に対応し、S.H.G を存続させるためのものである。G.C.F からの利子収入、貸付返済時の利子収入を原資とし、グループ形成時から 2～3 年を経過した後に機能しはじめる。プリカット地域では、G.R.F を導入している S.H.G は存在しなかった。一時期導入したグループもあったのだが、リスクに対応するという意識が薄く、利子収入はメンバー間で分配したということであった。

5.2 ファンドを元にした S.H.G の活動

S.H.G の活動は大きく分けて以下の 2 つである。

a グループ・メンバーへの貸付

S.H.G は、G.C.F からメンバーへの貸付を行う。メンバーからローンの申し込みがあると、メンバー全員でその用途を吟味し適格かどうか判断し、その後その額と返済時の利子が決定される。¹⁸⁾ メンバーはお互いの生活状態を、把握しているため、融資条件は適切なものが課される。これもトレーニングの一環で、あくまで自分達で全て決めるため、自主性が育成されると共に、議論の仕方などが醸成される。筆者は、融資の条件を決める場に立ち会う機会に恵まれた。2 つのグループが同時にトレーニングを受けるため、お互いに意見を交わしていた。かなり活発な議論のやりとりがなされ、その熱気に圧倒される。ただ年輩の参加者は、慣習からか、意見を公開することにとまどっている様子であった。

松 田 浩 敬

b アニュアル・アクション・プラン

S.H.Gの活動の中でも、最も重要なものとしてアニュアル・アクション・プラン (Annual Action Plan; 以降、A.A.Pとする) がある。これは州政府が奨励しているもので、全てのS.H.Gが、A.A.Pを策定・運営するべきであり、設立から6～8ヶ月を経過すれば、A.A.Pを策定することができるとしている。¹⁹⁾ A.A.Pの目的は、所得の創出はもちろん、村落の電力や衛生的な水、教育施設等の需要を満たすことである。つまり自身のニーズを、自身で満たしていく。

A.A.Pを立てたならば、まずそれを州政府に提出する。州政府はそれに対して条件を提示し、それが満たされたならばそのA.A.Pに応える。

実際にプリカット地域で行われている途上のA.A.Pを例に取る。あるS.H.Gは、チャイルド・ケア・センターを建設するというA.A.Pを立てた。子供の養育は家事の中でも大きなウェイトを占め、他の活動が妨げられる。チャイルド・ケア・センターに乳幼児を預け、自身はスキル・プロモーションにより得たスキルで所得を得ようというわけである。これに対して政府は、村落の子供のリストを作成し、その需要を把握するという条件を提示した。筆者による調査時は、この政府の条件に対して、村落全体でリストを作成していた。

「セルフ・ヘルプ・グループ」は、短期的には直面する生活状態・環境の問題の解決、長期的には社会の態様を変化させ、問題の原因を取り除くとともに、予防処置を構じることを目的とする。A.A.Pは、電力や衛生的な水を獲得する等を通じて、明らかに個人の生活状態・環境を変えらるとともに、地域を変化させる。また「セルフ・ヘルプ・グループ」には、「権利の擁護」機能がある。これは、自らの人生を改善するために政府・機関・制度等にアプローチをし、デモンストレーションを行うものである。正にS.H.GのA.A.Pはこれにあたる。

プリカット地域では、マイクロファイナンスであるS.H.GにI.F.D.Pのトレーニングが加わることで、メンバーは、「協働作業」の方法を学習し、「セルフ・ヘルプ・グループ」へと変貌していつている。「セルフ・ヘルプ・グループ」は、その長期的目的として、社会の自己に対する変化を置くが、以下で、S.H.Gによる地域への影響について述べる。

6 S.H.Gのプリカット地域への影響

6.1 男性のS.H.Gに対する視点

S.H.Gの導入直後は、女性のための組織で、トレーニングにより長い間家を留守にするため、男性側の反対や不信感は強い。この男性側の意識が、A.A.Pに

よる村落への電気・水道の供給、様々な施設の建設といった、目に見える生活の変化により変革される。

筆者は、村長とある S.H.G の代表者の夫にインタビューを行った。二人とも S.H.G 形成当初は、その活動に懐疑的であったが、A.A.P を通じた生活の変化を目にして、意識が変わったと述べた。その他の男性に尋ねても同じ答えであった。また、逆に女性の側に男性の S.H.G に対する意識について質問すると、A.A.P により、S.H.G の活動に理解を示すようになったという答えが得られた。

男性の意識が変革するにつれ、女性に対する態度も少しずつ変化しているようである。S.H.G の活動がなされる前は、会話が限られていたが、活動に参加することで女性は、自分の意見を口にするようになり、男性の意識変革と相まって、家庭内の夫婦の会話が多くなったと、先の S.H.G リーダーの夫婦はコメントしていた。

このように、マイクロファイナンスによる女性のエンパワーメントを目的として始まる S.H.G であるが、I.F.D.P のトレーニングを経るうちに、「セルフ・ヘルプ・グループ」へと変貌し、社会の変化、すなわち男性の女性に対する意識改革を達成している。

6.2 S.H.G 同士の連帯

「セルフ・ヘルプ・グループ」の構造上の特徴として、「質」の重要さとともに「数の強み」を認識しているということが挙げられ、複数のグループが一緒になり、互いに学び合い、あるいはまたグループが重要と考える変化を共に成し遂げるということがある。この点に関してプリカット地域の S.H.G をみてみる。

同地域では、S.H.G 同士を連帯させることを目的としたクラスター・ミーティングが存在する。クラスター・ミーティングは、月に 1 度、15～25 の S.H.G のアニメーターと代表者を集めて行われる。それ以外のメンバーも出席したい場合は出席することが可能である。2 人の I.F.D.P スタッフが出席する。このクラスター・ミーティングでは、年長の S.H.G の代表者あるいはアニメーターが、自身の経験を年少の S.H.G の代表者・アニメーターに伝え経験の共有がなされ、それを今後の活動に活かす。

このようにクラスター・ミーティングでは、広範囲に渡った S.H.G 同士の連帯がなされるが、もう 1 つ重要な機能がある。それは、新規に S.H.G を立ち上げようとする者へのアドバイスや、あるいは S.H.G の導入を必要とするような村落に関する情報交換である。クラスター・ミーティングは、端的に

松 田 浩 敬

言えば、自身の居住する地域の問題点・ニーズを十分に把握し、それに対する有効な解決策を探る場であるとともに、「数の強み」を認識・発現する場でもある。

S.H.Gは、「セルフ・ヘルプ・グループ」に近づくことで、地域に大きな影響を及ぼすが、組織として発展途上にあると言え、問題点も指摘できる。次にプリカット地域の S.H.G が抱える問題点について述べる。

6.3 プリカット地域における S.H.G が抱える問題点²⁰⁾

プリカット地域の S.H.G が抱える問題点は、メンバーへの融資に集約できる。S.H.G の融資は、教育や健康・衛生面に関する使用目的へのものが多い。しかしこれらは金額が少ない。見方を変えるとグループの資金規模が少ないため、教育や健康・衛生面への融資に限定せざるを得ない可能性がある。²¹⁾ メンバーの資金需要はこれだけではなく、船・エンジン・網等の漁具や、家の建設・修理等に対する需要、又、ダウリ(Dawli)と呼ばれる結婚持参金も、システム自体衰退してきてはいるが、未だその資金需要は大きい²²⁾。これらの金額は大きく、結局インフォーマルな金貸しからの借入で需要を満たしてしまう。その結果、返済に追われているという現状を指摘できる。これに対処するのが G.R.F だが、先に述べたように、十分機能していない。これは、マイクロファイナンスとしても、十分機能していないことを意味する。今後、このインフォーマルな金貸しとの関係をいかに断ち切るかが重要な課題となろう。

7 マイクロファイナンスにおける NGO の貢献

以下では、筆者がインタビュー及び、トレーニング風景等の観察を通じて感じた、I.F.D.P が、S.H.G の「自助」の達成・「セルフ・ヘルプ・グループ」への変貌を遂げるようなトレーニングを行い得た要因を挙げる。

7.1 住民の信頼

開発援助を行う際、援助機関あるいはそのプログラムが対象者・地域に受け入れられるかどうかは信頼の大きさに依存する。プリカット地域の住民の I.F.D.P に対する信頼は厚い。それは 3 で挙げた歴史的背景とこれまで行ってきた、その活動によるところが大きい。信頼を得ることができるようプログラムが実行できたのは、スタッフがプリカット地域の住民であるということが挙げられる。地域の住民であるがために、地域を良く把握しており、問題点や住民のニーズを良く心得、プロジェクトを実行した場合の効果を予測しやすい。²³⁾

7.2 住民によるモニタリング

I.F.D.P スタッフは、プリカット地域の厳しい生活環境を熟知し、打破するために日夜活動を行っている。もちろん自主的なものであるが、自身が地域住民であるため他の住民によるモニタリングも機能していると考えられる。

近年開発戦略における NGO の有効性に注目が集まるが、考慮すべきこととして、そのアカウンタビリティがある。I.F.D.P の場合、スタッフは地域住民であるため、常に被援助者側からモニタリングされていることになり、ピア・モニタリングの観点から、そのアカウンタビリティ問題は解消されている。この点も I.F.D.P が、プリカット地域で様々な成果をあげる要因として見逃せない。

7.3 現地 NGO の有効性

以上 7.1、7.2 をまとめると、図 7-1 のようになる。これからわかるように、I.F.D.P は、地域に関する豊富な知識と、歴史的な背景に基づく住民の信頼とにより、S.H.G の「自助」を育成していった。換言すると I.F.D.P が「自助」を育むようなトレーニングを行い得たのは、現地に密着した NGO であるがゆえの有利性を発揮したからである。

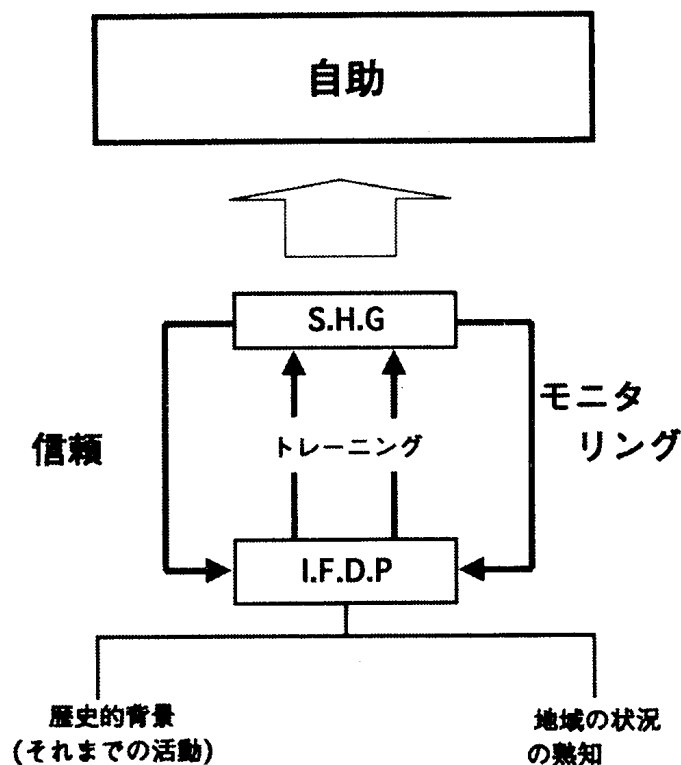


図 7-1 I.F.D.P による「自助」の育成 出所) 筆者作成

松 田 浩 敬

中央政府や国際援助機関等によるマイクロファイナンスは、画一的になる傾向がある。プリカット地域のS.H.Gもインド政府によるプログラムであるが、I.F.D.Pを介することによって、地域の特質に合ったプログラムとなっている。これはスタッフが地域住民であるがための豊富な知識に基づく。これに関しては、他の機関であっても詳細な調査を行えば、得られる可能性がある。しかし住民による活動に対するモニタリング効果は、現地NGOでなければ期待はできない。

S.H.Gは、マイクロファイナンスであるが、I.F.D.Pのトレーニングによりエンパワーメントを通じて、「自助」の育成すなわち「セルフ・ヘルプ・グループ」へと変化していった。「セルフ・ヘルプ・グループ」の究極の目的は、自分自身の人生や将来をコントロールできるようになることであり、情報や資源、自己決定などを自分でコントロールできるようになることである。最終的には、例えばI.F.D.Pであっても、その干渉がなくなることが望ましいし、また、それが開発の究極の到達点でもある。この事に関してI.F.D.Pスタッフに、将来的なビジョンを尋ねると、スタッフの殆どは、同地域の住民であるため将来的には一住民として生活を送るとのことであったが、新たな活動地域を探して移動するという者もいた。このようなI.F.D.P自身の存在意義が、将来的に問われると考えられる。

8. 要 約

以上、本稿はインド・タミルナードゥ州・プリカット地域を事例に、マイクロファイナンスであるS.H.Gとそのプロジェクトを実行する現地NGO、I.F.D.Pの活動に関して述べてきた。

プリカット地域の伝統的な女性の地位を考慮すると、S.H.Gは大きな効果が見込め、実際女性のエンパワーメントを通じ、S.H.Gが「セルフ・ヘルプ・グループ」へと近づくことで、地域の貧困緩和は進展していると言ってよからう。それはA.A.P及びクラスター・ミーティングに結実し、社会・男性の意識も変革されている。これを可能にしたのが、住民の信頼感とスタッフの情熱及び、地域住民によるモニタリングに基づくI.F.D.Pのトレーニングである。

問題点としては、S.H.Gの資金規模がメンバーの資金需要に対応しきれておらず、インフォーマルな金貸しの呪縛から逃れられていない、ということが挙げられる。今後G.R.Fによる対応などが求められるが、それとて1つのS.H.Gでは、資金規模は限られる。これについては、クラスター・ミーティング等からS.H.G同士の連帯が強まり、S.H.G連盟のような形で対応することが望ましいのではないだろうか。S.H.G連盟による信用組合の設立などが対応として挙げられる。²⁴⁾

注 記

- 1) 本稿では、エンパワメントを FASID (1993) にならい、それまで不利な立場にあったり抑圧された人々が、その構造を改善し、経済的、社会的、政治的、組織的、精神的な側面で、力を増強し発揮するようになることを示すものとする。
- 2) マイクロクレジットの呼び名もあるが、貸付に関する活動全般を指す場合が多い。本稿では、貸付のみでなく、貯蓄の動員等も含む金融を考察していくため、マイクロファイナンスの呼称を使用する。また様々なマイクロファイナンスの理論・アプローチに関しては、中村 (1999)、中村 (1998)、勝間 (1998)、FASID (1999) を参照のこと。
- 3) 本稿では、タミルナードゥ州におけるマイクロファイナンス・プログラムに関して述べる場合は「S.H.G」、概念に関して述べる場合は「セルフ・ヘルプ・グループ」と記述することにする。また、以降の「セルフ・ヘルプ・グループ」に関する記述は、岩田(1995)を参考にした。
- 4) 以下は、ソムニード・サンガム内部資料による。
- 5) ベンガル湾とを隔てる砂州にも村落が点在しており、そういった村落の漁師によるベンガル湾での漁業も行われているが、漁業の中心は湖での漁である。
- 6) 近年の漁獲高の、具体的な数値は得られていないが、資料及びインタビューから漁獲高の減少傾向が指摘できる。
- 7) CReNIEO は、1988 年 7 月に、Pulicat National Matriculation School (以降 P.N.M.S とする。)を開校した。P.N.M.S は、幼稚園から第 9 学年 (18 歳で卒業) までである。授業はタミルナードゥ州の要綱に従っており、州政府から補助金が出されている。2000 年現在で約 500 人の学生がおり、そのうち 85% 以上が漁民の子供である。プリカット地域の住民の教育に対する意識は高い。漁獲高の減少による 1 人当たり所得の減少をはじめとして、プリカット地域の生活環境は厳しいため子供に高い教育を受けさせ、漁業以外の仕事に就かせたいというのが、両親の考えであるようだ。また P.N.M.S の第 9 学年の学生に将来就きたい仕事を尋ねると、皆、システム・エンジニアや教師、医師、弁護士といった漁業以外の高給が見込める仕事を挙げていた。具体的には、ボート・エンジンの修理の講習やオフィス内にあるコンピューターを使った、コンピューター・スクールの開校などがある。またインフォーマルな教育に関しては、学校に通えない者やドロップ・アウト者に対して、漁業以外のスキル・プロモーションを行うとなどしている。

松田 浩 敬

- 8) I.F.D.Pは、プリカット地域の幾つかの村落に診療所を設け、看護婦、あるいは医師の資格を持つスタッフが診療を行っており、衛生等に関する住民への教育に一役かっている。また、スキルプロモーションの具体的な内容としては、香辛料の作り方や刺繍、魚のピクルスの漬け方等が挙げられる。
- 9) L.W.A.Pには、アルコールに対する反対活動も含まれている。
- 10) 以下、I.F.D.Pスタッフへのインタビュー、州政府発行の S.H.G Working manual を参考にした。
- 11) 2人の代表者の違いは明確ではなかったが、アニメーターは帳簿をつけるなどの責任者で、代表者は文字通りグループの代表となっているようだった。
- 12) 口座開設に当たって、預金通帳が作成されるが、この預金通帳に2人の名義人の写真が添付され、身分証明がなされる。
- 13) プリカット地域の S.H.G の場合、政府・商業銀行・NGO が連携をしながら行うが、商業銀行の役割は、低利融資を行うというよりは、S.H.G メンバーの貯蓄先の意味合いの方が強い。まだ低利融資を受けて新規事業を行う水準まで達しているグループが少ないからであると思われる。
- 14) トレーニングは、①アニメーターと代表者に対するもの、②クラスターレベルでの代表者に対するもの、③S.H.G メンバーに対するものの3つに分けられる。本稿では、S.H.G メンバーの「自助」の形成に最も大きな影響を及ぼすと考えられる、S.H.G メンバーに対するトレーニングに関して述べる。詳細には紙幅の都合上述べないが、他の2つについて少し触れる。まずアニメーターと代表者に対するトレーニングであるが、それぞれ12の項目からなる。1つの項目あたりに1日かけるため、計24日かかる。主に帳簿のつけかたやグループ運営の仕方をトレーニングされる。次にクラスターレベルの代表者トレーニングは、クラスター内の S.H.G の連合組織を作 ることを目的とする。まずクラスター内の S.H.G から2人の代表者を選出する。この代表者に対して4つの項目が規定され、1つの項目当たり1日かかる。
- 15) I.F.D.Pは政府の委託によりモニタリングと評価を行っている。モニタリングは、帳簿に関するもので、月ごとの監査と、年に1度の監査がある。評価に関しては、グループ形成からの年数に合わせ、46の項目について、A～Dの評価が付けられる。A～Cグレードの評価が得られたグループに対しては、州政府から報奨金が与えられ、同時にI.F.D.Pにも報奨金が支給される。Aグレードを得たグループに関しては、1グルー

プあたり 1500～2000Rs が I.F.D.P に支給される。また I.F.D.P のトレーニングに関しては、州政府のモニタリングが行われる。州政府の役人がトレーニングに同席し、日時・場所・参加人数等を確認し、書類にサインする。トレーニング終了後、I.F.D.P はレポートを作成し、それを州政府に提出する。州政府は、それを確認し S.H.G メンバー 1 人あたり 30Rs を I.F.D.P に支給する。これに加え休憩時の食べ物やお茶等の費用として、メンバー 1 人当たり 25Rs も同時に支給される。

- 16) 原資は、グループ形成時に政府から支給されるもの、メンバーによる 2Rs/月の支払い、銀行口座の貯蓄からの利子収入、貸付の返済時の利子、高い評価を受けたことによる州政府からの報奨金等である。S.H.G の全てのトレーニングが終了するのは、基本的に 3 年であるため、3 年間毎月支給される。グループの大きさ等により異なるが、筆者が調査した村落の 1 つの S.H.G は、1 年目に 150Rs/月、2 年目、3 年目に 100Rs/月支給されていた。また、I.F.D.P スタッフによると、政府からの G.M.F は、支給に関してルーズであり、時間がかかるため、支給されるまでの間 I.F.D.P がその資金を補助しているとのことであった。
- 17) S.H.G メンバーは、毎月の一定額の貯蓄以外にも自分の所得に見合った貯蓄を行うことができる。個人では、商業銀行側が敬遠して口座を開設できないため、S.H.G の口座に貯蓄をする。この貯蓄は当然個人のものである。帳簿の記入の仕方を知っているのはアニメーターのみであるため、アニメーターが個人ごとに帳簿に記入する。プリカット地域では、それほど所得に格差が無いためか、個人で貯蓄を行っている例はなかった。またインタビューから、個人ごとの帳簿をつけることは、アニメーターにとって大きな負担になるという解答が得られた。これも個人の貯蓄がなされない理由の 1 つであると思われる。
- 18) 用途の内容としては、子供の教育、病気の治療、衛生面の改善といったものである。利子率も自主的に決定されるが、概ね 2～3% 程度が課される。商業銀行から融資を受けるならば、10～15% の利子が課される。債務不履行の例はなく、もし債務不履行が生じれば、貴金属等を抵当にするとのことであった。
- 19) A.A.P の原資の中で最も大きいのは、政府の補助と、高いグレードを獲得したときの報償金である。大きさは、グループ間で異なる。ある S.H.G は、25000Rs の補助金を受けていた。
- 20) 筆者は、1 つの村を対象に、S.H.G からの融資の額・目的、他のインフォーマル金融からの貸付の有無とその額・目的に関して調査を行った。本節

松 田 浩 敬

は、それを基にしたものだが、資料の整理の途上にあるため、詳細は別の機会に譲る。

- 21) 医療目的の使用に対する融資が最高で6500Rsであった。これを除くと最高でも4000Rsであった。目的は複数で、教育やエンジン等の修理であった。教育目的のみでみた場合、1000Rs以下である。
- 22) 船、エンジン、網の値段は、それぞれ約4000Rs、4000Rs、3500Rs～4000Rsである。S.H.Gからの融資で漁具や家の建築を挙げる者もいたが、全て少額であり、補修等に使用されると思われる。またダウリは、最低でも20000Rsであった。
- 23) I.F.D.Pスタッフの開発ワーカーとしての意識の高さも見逃せない点である。トレーニングには州政府の役人が出席することが必要だが、I.F.D.Pスタッフの言質によると、トレーニング当日が雨であったりすると、役人が現れないことがある。この場合、サインを得ることができず、州政府からの資金の給付を受けることができない。しかしトレーニングは予定通りに行われる。これは自らの居住する地域の改善に努める、彼らの意識の高さを示すものである。
- 24) 実際には、S.H.G同士が連帯し、信用組合となった事例も報告されている(須田、2001)。

参考文献

- 岩田泰夫 1995 「セルフヘルプとは何か? Collective of Self Help Group」
 桃山大学社会学論集、29 (2)、123-139.
- 勝間 靖 1998 「低所得者を対象とした金融機関の発展による零細企業育成と貧困緩和—アプローチをめぐる争点の整理」国際協力研究、14 (1)、77-89.
- 中村まり 1999 「バングラデシュにおけるマイクロクレジット政策の理念と現実」アジア経済、40 (9・10)、134-164.
- 中村まり 1998 「岐路に立つマイクロ・クレジット・キャンペーン」アジア研究ワールド・トレンド、40 (11)、35-38.
- 岡本真理子・栗野晴子・吉田秀美編著 1999 マイクロファイナンス読本途上国の貧困緩和と小規模金融 財団法人国際高等教育機構国際開発研究センター.
- S.H.G Working Manual 1999.
- 須藤敏彦 2001 「インドにおけるマイクロファイナンスの新展開 —インフォーマルな自助グループとフォーマル金融機関の連結プログラム—」農林金融、54 (7)、392-420.

NGO's Role at Micro Finance Program -Case Study on Pulicat, Tamilunadu, India-

Hiroataka Matsuda

Summarize

Micro Finance Program is very important role in development strategy. The Program contribute to start a small business for income generating. Moreover, the program promote empowerment of women.

Micro Finance Program's success depend on the organization which carry out the program. The organization must have knowledge about the turget. I think that NGO has the knowledge.

This paper study the NGO at Pulicat, Tamilunadu, India. The NGO's name is I.F.D.P. Pulicat area has experienced environmental disruption. The resident's income is becoming small. I.F.D.P support them. I.F.D.P carry out S.H.G. S.H.G is a micro finance program at pulicat. The purpose of S.H.G is empowerment of women. This paper report the relationship between I.F.D.P and S.H.G.

keyword :

Micro Finace, NGO, S.H.G